

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム・オアシスはぎ園		
所在地	萩市大井1689-13		
電話番号	0838-28-5177	事業所番号	3570400303
法人名	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団		

訪問調査日	平成 19 年 10 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人 非常勤 2 人 (常勤換算 13.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建 造り		
	1 階建ての	1 ~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円	
その他の費用	月額	7,000 円			
	内訳	光熱水費6,000円 テレビ代1,000円			

(4) 利用者の概要 (10月18日現在)

利用者数	17 名		男性 2 名		女性 15 名	
	要介護1	1	要介護4	0		
	要介護2	6	要介護5	0		
	要介護3	10	要支援2	0		
年齢	平均	87 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 都志見病院・玉木医院・河野医院 歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ホームは海辺に立地し、平屋建て2ユニットで、自然の光や木の香で暖かさが感じられ、利用者は互いの共有空間を行き来し交流されておられます。ホーム内の飾り付けなどは利用者の希望や意見を採り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫がされています。ホームは特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等が併設する複合施設の一つで、協力医療機関や併設施設との連携により、利用者の健康面での安心と安全が保障されています。

(特徴的な取組等)

利用者は午前と午後のプログラムにより、自分のペースで好きな活動に参加することができ活動的に過ごされています。外出も盛んで、ドライブはもちろん、喫茶店でお茶を飲むなど個々の希望に応じた外出先も工夫され、とりわけ、「ふるさと訪問」は好評です。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果は、職員および家族に報告され、職員と家族の意見や要望を採り入れながら、試行錯誤で日々の介護を実践するなかで改善を図っています。1年間で多くの改善を果たし、管理者、職員一丸となって、さらなるサービスの質の向上に向けて取り組んでいます。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者が自己評価の意義や施設の方針を説明して、職員全員で評価し、取りまとめておられます。改善点や、今後取り組む事項についても職員全員で協議されています。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、各地区の自治会長、民生委員、地域包括支援センター、農協婦人部、子ども関係者等多くの参加があり、地域の人へのホームの理念の理解や、訪問、見学、ボランティアなどの協力につながっています。運営推進会議でも評価結果を報告し、地域の意見も取り入れサービスに活かしておられます。

(家族との連携状況)

年1回家族会が開催され、夏祭り、クリスマス会を通じて交流し、良好な関係が築かれています。利用者の暮らしぶりや健康状態は、面会時に報告し、必要に応じて電話等でも報告しています。出納明細や月間行事予定表、ホーム便り等も定期的に送付されています。

(地域との連携状況)

日常的にも知り合いの人が立ち寄り、地域の人と交流する機会ももっています。火災訓練や敷地内で行われる「夏祭り」は、地域住民の協力を得て実施され、地域との連携・協力体制ができています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設当初より、ホーム独自の理念「オアシス7星」を定めている。7つの文章(理念)には「安心」「明るい」「地域とふれ合う」などそれぞれにキーワードがあり、具体的に表現されている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念は玄関、事務所に掲示しており、引継ぎ、ユニット会議、ホーム会議などを通じて、職員間で相互に意識啓発し、実現に向けて意欲的に取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の夏祭りを共同開催し、地区住民も多数参加し、交流を図っている。日常的には、幼稚園児、書道、華道など地域のボランティアの来訪や、住民が立ち寄るなど、地元の人々と交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解し、全職員で自己評価を実施し、前回外部評価の改善点の苦情処理体制の明示など、職員会議やユニット会議など全職員で協議し、日常的に改善に取り組む、サービスの質の向上に活かしている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>18年9月から開催し、家族・利用者のほか、地区の自治会長、民生委員、農協婦人会、子ども会などのメンバーで、外部評価報告、防災対策等について話し合い、理解と協力を得てサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じ相談している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態は面会時に報告し、必要に応じて電話等でも報告している。また、出納明細、月間行事予定表、ホーム便り(年4回)、職員の異動等を定期的に送付して知らせている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談・苦情の受付窓口、第三者委員、外部機関を明示し、外部機関はホーム便りにも記載し周知を図っている。苦情処理手続きも明確に定めている。また、意見箱を設置したり、年1回家族会(総会)を開催して意見交換しそれらを運営に反映させている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の生活に応じた職員配置であり、状況の変化や要望に応じて勤務調整をしている。職員確保の話し合いにより、夜勤体制は1名であったものを各ユニットに1名(計2名)の配置にしたり、緊急時には併設の特別養護老人ホームの夜勤者に応援を要請できる体制にしたりして、サービスの充実に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内の異動は年2回程度あるが、離職や異動は必要最小限に抑える努力がされ、顔なじみの関係が維持できるように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人ごとの研修計画を立て、法人内外の研修受講に際しては勤務扱いとして参加の機会を確保している。研修内容は職員会議で復命し、報告書を供覧することにより、全職員で共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や交流の機会をつくっている。他施設の相互訪問や実習受け入れを通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>日中の見学時間を長めにとり、食事を一緒にしたり、交流を図ることによって、本人が安心して、納得した上でサービスが利用できるように、本人、家族と相談しながら対応している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>献立や食事の支度、外出など、一緒に過ごしながら、家事や子育てについて職員がアドバイスを受たり、人生の先輩として敬い、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人に直接希望を尋ねたり、日々の会話や行動からの把握に努め、意向の把握が困難な場合は、家族と相談したり、職員間で話し合い本人本意に検討している。把握した思いや意向は記録し職員間で共有している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の意向を尊重し、家族とも話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>計画の期間に応じて見直しをしている(概ね3ヶ月が基本)。それ以前に変化が生じた場合には、関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院への受診援助や、個別の要望に応じての故郷訪問、理美容院、集会参加への送迎など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医療機関の受診は、職員が送迎支援をしている。また、近隣の協力医による週2回の往診や、日・祝日でも対応が可能な体制が取られ、かかりつけ医や協力医との連携により、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合には、家族や医療関係者等と繰り返し話し合い、特別養護老人ホームなどの他サービスへの移行など、安心、納得できるよう支援している。現在、終末期の取り組みはしていないが、入院して家族が付き添えないで困っている場合は付き添いの支援をしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけや対応は接遇マニュアルに基づいて常に気をつけている。守秘義務を厳守し、記録等の取り扱いも留意しているが、本人や家族が閲覧する場合、書類によれば記録内容が他の利用者の記録と一緒にものが見られた。	・閲覧方法等の見直し
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴時間などの時間帯は概ね決まってはいるが、その時々その本人の希望やペース、健康状態に応じて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	週3回、利用者と一緒に買い物に行き、毎日3食ともホームで調理して同じ食事を食べ、個々に応じて、食事の下ごしらえ、配膳、後片付けなど、利用者と職員と一緒にやっている。茶碗や箸、湯のみは一人ひとり自前の物を使っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日概ね15時から18時に入浴している。順番も決まっているが、個々の希望やタイミングに合わせて、ゆったりと楽しめるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、個々の得意分野を活かせるように、食事の支度、裁縫、園芸、書道、華道、クラフト等、多様な場面づくりをして、楽しみや生きがいにつながるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日用品の買い物や喫茶店に行くなど、希望があれば誰でも気軽に外出できるよう支援している。普段行けない場所など希望を聞いて、小旅行や、故郷訪問なども支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については全ての職員が正しく理解しており、ユニット会議、職員会議などで日々のケアについて常に話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合には、施錠することもあるが、家族には承諾を得ている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントマニュアルを作成し実行している。ヒヤリはっと事故報告書により、対策を検討し、事故防止改善対策報告書を作成して、要因を分析し事故防止に努めている。ヒヤリはっと報告書の記録が少ない。	・ヒヤリはっと報告書の記録方法の工夫 ・供覧確認の工夫
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変に備えて、救急救命訓練講習会を開催し修了者を増やしたり、事故発生時対応マニュアルを作成し、訓練を実施しているが、定期的ではない。	・定期的訓練実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルを作成し、各会議で周知徹底し、10月に夜間想定火災避難訓練を地域住民との協働で実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個々の既往歴、現在の健康状態、治療状況等はファイルを通じて全職員が把握している。服薬中の薬剤の効能や副作用、与薬時の留意点等についてもミーティング時に資料を活用して学習している。服薬はその都度手渡しし確認している。必要な情報は医師等にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで歯磨きをしている。歯ブラシや義歯などは本人が保管しているが、定期的に清掃、消毒の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は、職員が利用者の希望を取り入れながら立てている。また、定期的に栄養士資格をもつ職員が一人ひとりの食事・水分の摂取量の記録を基にチェックし、個々の栄養バランスやカロリーにも配慮した支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対策マニュアルに基づき実行している。うがい、手洗いは職員のみならず来訪者にも徹底している。利用者および職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の温度や明るさ、生活音は利用者の意向を尊重して適度に調節されている。天井が高く、大きな窓が取り付けられているので、自然の光が差し、障子やカーテンで調節でき、窓を開けての自然の換気にも配慮している。リビングには馴染みやすい家具や調度品を配置し、ベランダには自由に出入り出来、季節ごとの花や野菜を作り、廊下、居室の入り口には利用者の作品を飾り、適度な活動の中で刺激も受けながら居心地良く過ごせる工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	たんす、ベッド、椅子、テーブル、写真、仏壇等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるよう支援している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームオアシスはぎ園
所在地	萩市大井1689-13
電話番号	(0838)28-5177
開設年月日	平成 16 年 12 月 20 日

【サービスの特徴】

安全と健康確保の支援（協力医・スタッフの連携）
 利用者とスタッフが喜怒哀楽を共有する家族的関係（温かさ）
 生き甲斐が実感できるわかりやすい関わり（優しさ・親切・励まし）
 尊厳をたいせつにし生活実感がもてる自律支援（存在感・役割感・達成感）
 清潔で住みやすい環境
 これからも仲間と共に地域交流（地域社会資源・ひととの関わり）
 生活リハビリの実践（アクティブ介護予防）

【実施ユニットの概要】（9月1日現在）

ユニットの名称	A棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	0	要介護 4	0
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢構成	平均 85.3 歳	最低 76 歳	最高 91 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の記入様式の変更について説明(今年度様式が変更になったため) 自己評価の視点・大切さ、記入方法について説明 評価表を職員全員に配布 回収 意見を集約 まとめ
評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>掲示のみでなく、今の理念を実践できているか職員で話し合い検討を加える。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>地区の活動、行事にもっと積極的に参加していきたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>季節ごとの地区の活動、行事にもっと積極的に参加していく。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>地域からの相談等があれば今後取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意味を充分理解し、評価、提案されたことについて、検討を加え改善している。	改善したところについても、改善が充分かサービスがしっかり実施されているかをさらに検討を加えていく。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	評価で提案された改善について状況を報告し、協力を仰いでいる。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談、質問等はしている。	市担当者への相談、質問以外で色々な面で行き来する機会が出来ないか考慮中。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修等学ぶ機会を持っている。利用者で活用されている方がいる。	今後も研修等学ぶ機会を計画的に増やし、理解を深めるようにする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法については、職員会議、研修等で学ぶ機会を持っている。身体拘束等廃止要領を定め周知している。	今後も研修等学ぶ機会を計画的に増やし、理解を深めるようにする共にスタッフ同士で指摘しあえる関係性を構築する。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族等の不安、疑問点について充分答えられるよう情報の収集のあたり、理解、納得がいくよう説明している。	今後も不安、疑問点について納得していただけるよう研鑽していきたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月1回スタッフと利用者の懇談会を設け話し合いをしている。意見、要望があった場合すぐに対応するようにしている。運営推進会議、家族会への出席の機会を設け利用者が意見を述べられるようにしている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回、報告している。年1回、家族会を開催している。ホーム便りを作成し活動内容や支援情報を掲載している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		資格取得に向けた自己研鑽に取り組む研修への出席の促進 復命書の共有化の工夫
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他施設との情報交換、見学等への職員の出席を増やし交流が持てる機会を持っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		年休取得の促進 処遇改善は課題である。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		人事考課制度の試行今年度取り組んでいる。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族に機会を捉え利用者の現状を伝え、節目や行事など参加を呼びかけ、一緒に過ごす時間が増えるように働きかけている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	毎月、送付する文書等で利用者の現状を伝えたり、行事等への参加の呼びかけ、写真等の送付を行い関係がより強いものとなるようはたらきかけている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	故郷訪問、電話、手紙、季節の挨拶(暑中見舞い等)等を実施して関係が途切れないようにしている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係が偏ったものにならないよう、食事の席など利用者と話し合いながら変更するようにしている。 家事など不公平にならないよう当番制として役割分担している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			今後、設問のような状況があれば関係を断ち切らないようなつきあいをしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の会話、態度を踏まえたうえで、本人に直接はなしを聞いたりし把握に努めている。本人意向など日誌にあげるようにしている。 本人の意向が把握が困難な場合は、本人の立場に立ち職員間で話し合い検討している。		ケアプラン作成時の本人出席を促進していく。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用開始時に生活歴、暮らし方、生活環境等については本人、家族から話を聞き把握に努めているが、不十分の場合は、その都度、機会を捉え本人、家族から情報を得、把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の記録をとり、現状が把握できるようにしている。 日誌、健康チェック表、個別チェック表の記入		個別記録の様式の見直しを進め、現状把握を判りやすくしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	話し合いもちケアプランを作成している。	利用者本人のカンファレンスへの出席の促進
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画の期間に応じ見直しをしている。変化が生じた場合には計画の見直しを行い現状に即した計画を立てている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別チェック表に記録し、引継ぎ簿等に気づきや変更事項等記載し、職員全員で情報を共有できるようにしている。	個別記録の様式の見直しを進め、現状把握を判りやすくしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠距離からの家族の面会などについてはホームへ宿泊していただいている。 自宅、病院、集会など要望があれば送迎している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方から利用者の趣味活動に対するボランティアの方の紹介を受けたりしている。 移動図書館を利用している。 災害の時は地区の消防団の協力をお願いしている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	地区の方の見学 申し込み家族の見学 ボランティアの受け入れ 学生の実習受け入れ 他事業所の方の見学 等を実施している	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在、設問のような状況がない。	今後、必要があれば実施していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、必要があれば実施していく。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も関係維持に努めたい
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後、必要があれば考えなければならない。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も関係維持に努めたい
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		病院関係者だけでなく、家族とも連絡を密にし入院したとき安心していただけるようにしている。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		現在、終末期の取り組みをしていない。重度化の場合、家族、医療関係者等と相談の上、他サービスへの移行を考えていく。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		現在、終末期の取り組みはしていない。重度化の場合検討の上、他サービスへの移行を考えていく。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		必要な情報は提供し、ホームでのノウハウも提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>接遇マニュアルの徹底を行い、子供扱いしないなど常に注意している。知る得た情報についても漏らさないように徹底し記録についても、丁寧な表現に心がけ目に付きやすいところに置かないように注意している。</p>	<p>馴染みの関係がマンネリにつながって、言葉かけなど、誇りやプライバシーを損ねていないか点検していく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>更衣、入浴の際の衣類の選択、外出時の行き先の選択等本人と話し合い、選んでもらえるようにしたり、意見や希望を求めるような言葉かけをし自己決定を促している。</p>	<p>選択肢を増やす工夫に取り組む</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者のできる力を重視し、利用者の中に不公平感が生まれないように配慮し当番制としているが、臨機応変に対応し、得意なこと(調理、裁縫、買い物、配膳)について個々にその都度支援している。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の活動内容が決めてはあがあるが、その日の体調、本人の希望、ペースに合わせるようにしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>移動美容院や市内の美容院を利用している。馴染みの理容院がある方はそこを利用している。化粧品、衣類等選べる方については選んで買ってもらっている。顔そり等は、職員が支援している。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理の下準備、味付け、作り方など利用者にお問い合わせし、相談しながら調理している。食器の準備、後片付けも一緒に行っている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>週一回 ビール(ノンアルコール)を楽しむ機会を持っている。(かかりつけ医に相談し健康に影響の出ないように配慮している。)希望を聞いておやつや飲み物を購入して楽しんでいる。</p>	<p>嗜好品については、健康面で注意が必要こともあるため、かかりつけ医と相談しながら楽しむ機会を拡大する。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>オムツは使用していない。排泄のパターンを掴むため記録をとったりし、失敗を減らし気持ちのよい排泄を支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	家族会、夏祭り、クリスマス会など季節の行事に参加の案内をしている。		家族が参加できる行事の工夫
(4)安心と安全を支える支援			
74 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束につながる具体的な行為について理解し、ユニット会議、職員会議でケアの取り組みについて話し合いをしている。		拘束につながるケアをしていないか、研修等に出席し習熟していく。
75 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	事務所に管理者がいるときは鍵をかけないこととしているが玄関が各ユニットから死角となるため事務所に管理者が空ける場合は鍵をしているときもある。施錠については家族に承諾していただいている。		見守り、所在確認の徹底を行い昼間は鍵をしないようにする。
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りを徹底し、外出後等の人数確認を徹底している。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人と話し合いながら、本人の状態の応じて危険が回避できるようにしている。		
78 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントマニュアルの徹底とひやりハット報告書、事故報告書の確実な整理と検討をしている。		職員間の情報の共有についての工夫
79 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時対応マニュアルの徹底。		計画的な研修、学習会の開催
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ひやりハット報告書、事故報告書の確実な整理と検証の実施と発生防止をリスクマネジメント委員会で検討し改善策を講じている。		改善策確実な実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		処方薬の説明書のファイリングを個人別にし把握しやすくする。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		緩下剤などの使用に頼らない工夫
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の掃除をかかさず行い、打ち水などし清潔にしている。玄関内は花を飾るなどし、心地よい空間作り心がけている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングの飾りつけなどは利用者と一緒に考え、過ごしやすいように工夫し、音の大きさ、空調の強弱、光の調整などは利用者の意向を確認している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の数箇所に椅子を設置している。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、ベット、イスやテーブル、写真、仏壇等これまでの生活で馴染みのある物を持ち込んでもらい本人が落ち着ける居室作りをしている。	本人の意向や趣味を取り入れた備品の更新。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室の換気には注意を払い、天気のよい日は1回は窓を開け換気する。空調の調節は利用者の状況の応じこまめに調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	バリアフリーの廊下、居室の出入り口、廊下の手すりの設置 老人カーの使用、歩行器、車椅子等本人の状態に応じた福祉用具を使用している。	利用者の状態の変化に応じた工夫の促進
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、お風呂、公衆電話のプレートの設置。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダへの出入りは自由にでき、プランターなどで花や野菜を育てている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	<input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと	<input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが	<input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームオアシスはぎ園
所在地	萩市大井1689-13
電話番号	(0838)28-5177
開設年月日	平成 16 年 12 月 20 日

【サービスの特徴】

安全と健康確保の支援（協力医・スタッフの連携）
 利用者とスタッフが喜怒哀楽を共有する家族的関係（温かさ）
 生き甲斐が実感できるわかりやすい関わり（優しさ・親切・励まし）
 尊厳をたいせつにし生活実感がもてる自律支援（存在感・役割感・達成感）
 清潔で住みやすい環境
 これからも仲間と共に地域交流（地域社会資源・ひととの関わり）
 生活リハビリの実践（アクティブ介護予防）

【実施ユニットの概要】（9月1日現在）

ユニットの名称	B棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢構成	平均 88.4 歳	最低 82 歳	最高 100 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の記入様式の変更について説明 自己評価の視点・記入方法について説明 評価表を職員全員に配布 回収 意見を集約 まとめ
評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		掲示のみでなく、今の理念を実践できているか職員で話し合い検討を加える。
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		地区の活動、行事にもっと積極的に参加していきたい。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		季節ごとの地区の活動、行事にもっと積極的に参加していく。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地域からの相談等があれば今後取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意味を充分理解し、評価、提案されたことについて、検討を加え改善している。	改善したところについても、改善が充分かサービスがしっかり実施されているかをさらに検討を加えていく。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	評価で提案された改善について状況を報告し、協力を仰いでいる。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談、質問等はしている。	市担当者への相談、質問以外で色々な面で行き来する機会が出来ないか考慮中。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修等学ぶ機会を持っている。利用者で活用されている方がいる。	今後も研修等学ぶ機会を計画的に増やし、理解を深めるようにする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法については、職員会議、研修等で学ぶ機会を持っている。身体拘束等廃止要領を定め周知している。	今後も研修等学ぶ機会を計画的に増やし、理解を深めるようにする共にスタッフ同士で指摘しあえる関係性を構築する。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族等の不安、疑問点について充分答えられるよう情報の収集のあたり、理解、納得がいくよう説明している。	今後も不安、疑問点について納得していただけるよう研鑽していきたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月1回スタッフと利用者の懇談会を設け話し合いをしている。意見、要望があった場合すぐに対応するようにしている。運営推進会議、家族会への出席の機会を設け利用者が意見を述べられるようにしている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回、報告している。年1回、家族会を開催している。ホーム便りを作成し活動内容や支援情報を掲載している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		資格取得に向けた自己研鑽に取り組む研修への出席の促進 復命書の共有化の工夫
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他施設との情報交換、見学等への職員の出席を増やし交流が持てる機会を持っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		年休取得の促進 処遇改善は課題である。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		人事考課制度の試行今年度取り組んでいる。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		今後、設問のような状況があれば出来るだけ、関係維持に努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		ケアプラン作成時の本人出席を促進していく。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		個別記録の様式の見直しを進め、現状把握を判りやすくしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	話し合いもちケアプランを作成している。	利用者本人のカンファレンスへの出席の促進
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画の期間に応じ見直しをしている。変化が生じた場合には計画の見直しを行い現状に即した計画を立てている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別チェック表に記録し、引継ぎ簿等に気づきや変更事項等記載し、職員全員で情報を共有できるようにしている。	個別記録の様式の見直しを進め、現状把握を判りやすくしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠距離からの家族の面会などについてはホームへ宿泊していただいている。 自宅、病院、集会など要望があれば送迎している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方から利用者の趣味活動に対するボランティアの方の紹介を受けたりしている。 移動図書館を利用している。 災害の時は地区の消防団の協力をお願いしている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	地区の方の見学 申し込み家族の見学 ボランティアの受け入れ 学生の実習受け入れ 他事業所の方の見学 等を実施している	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在、設問のような状況がない。	今後、必要があれば実施していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、必要があれば実施していく。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も関係維持に努めたい
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後、必要があれば考えなければならない。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も関係維持に努めたい
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしてい</p>	<p>接遇マニュアルの徹底を行い、子供扱いしないなど常に注意している。知る得た情報についても漏らさないように徹底し記録についても、丁寧な表現に心がけ目に付きやすいところに置かないように</p>	<p>馴染みの関係がマンネリにつながって、言葉かけなど、誇りやプライバシーを損ねていないか点検していく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>更衣、入浴の際の衣類の選択、外出時の行き先の選択等本人と話し合い、選んでもらえるようにしたり、意見や希望を求めるような言葉かけをし自己決定を促している。</p>	<p>選択肢を増やす工夫に取り組む</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者のできる力を重視し、利用者の中に不公平感が生まれないように配慮し当番制としているが、臨機応変に対応し、得意なこと(調理、裁縫、買い物、配膳)について個々にその都度支援している。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の活動内容が決めてはあるが、その日の体調、本人の希望、ペースに合わせるようにしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>移動美容院や市内の美容院を利用している。馴染みの理容院がある方はそこを利用している。化粧品、衣類等選べる方については選んで買ってもらっている。顔そり等は、職員が支援している。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理の下準備、味付け、作り方など利用者にお問い合わせし、相談しながら調理している。食器の準備、後片付けも一緒に行っている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>週一回 ビール(ノンアルコール)を楽しむ機会を持っている。(かかりつけ医に相談し健康に影響の出ないように配慮している。)希望を聞いておやつや飲み物を購入して楽しんでいる。</p>	<p>嗜好品については、健康面で注意が必要こともあるため為、かかりつけ医と相談しながら楽しむ機会を拡大する。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>オムツは使用していない。排泄のパターを掴むため記録をとったりし、失敗を減らし気持ちのよい排泄を支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		家族が参加できる行事の工夫
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		拘束につながるケアをしていないか、研修等に出席し習熟していく。
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		見守り、所在確認の徹底を行い昼間は鍵をしないようにする。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		職員間の情報の共有についての工夫
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		計画的な研修、学習会の開催
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		改善策確実な実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		処方薬の説明書のファイリングを個人別にし把握しやすくする。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		緩下剤などの使用に頼らない工夫
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の掃除をかかさず行い、打ち水などし清潔にしている。玄関内は花を飾るなどし、心地よい空間作り心がけている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングの飾りつけなどは利用者と一緒を考え、過ごしやすいように工夫し、音の大きさ、空調の強弱、光の調整などは利用者の意向を確認している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の数箇所に椅子を設置している。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、ベット、イスやテーブル、写真、仏壇等これまでの生活で馴染みのある物を持ち込んでもらい本人が落ち着ける居室作りをしている。	本人の意向や趣味を取り入れた備品の更新。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室の換気には注意を払い、天気のよい日は1回は窓を開け換気する。空調の調節は利用者の状況の応じこまめに調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	バリアフリーの廊下、居室の出入り口、廊下の手すりの設置 老人カーの使用、歩行器、車椅子等本人の状態に応じた福祉用具を使用している。	利用者の状態の変化に応じた工夫の促進
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、お風呂、公衆電話のプレートの設置。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダへの出入りは自由にでき、プランターなどで花や野菜を育てている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない